

芸術総監督おすすめコメント

“食”は実際に口にしないと絶対にわからないものですが、音楽も正に同じで、実際に耳から体内に入れてみないと本当には味わえないものだと思います。勿論、それが心の栄養になります。この公演では世界最高峰の音と音楽が味わえます。私もかつてオーケストラのフィールドに長らく身を置いておりましたが、「凄いソリストが集まったものだ」と思っています。是非、東海市芸術劇場で極上の“音”をご体感ください。

東海市芸術劇場館長兼芸術総監督 安江正也



アンサンブル・ウィーン=ベルリン [木管五重奏]

1983年にウィーン・フィルとベルリン・フィルから集う桁外れのソリスト5人、シュルツ(Fl. ウィーン・フィル)、シェレンベルガー(Ob. ベルリン・フィル)、ライスター(Cl. ベルリン・フィル)、トルコヴィッチ(Fg. ウィーン響)、ヘーグナー(Hr. ウィーン・フィル)によって設立され、「スーパーアンサンブルの誕生」と熱狂的な喝采をもって世界中の音楽界から迎えられた。以来、メンバーを徐々に変更しながら活動を続けてきたが、2013年に30周年を迎えたのを機に、ザルツブルク音楽祭、ウィーン、ベルリンでの演奏をもって、最後の創立メンバーであったシェレンベルガーが引退。完全に若返る形で、新生アンサンブル・ウィーン=ベルリンとして新たな船出をした。その後、2015年、17年、19年と日本ツアーを行い、会場には若い聴衆も詰め掛け、いずれも大成功を収める。新しい感性と卓越したテクニックで、これまでにない更なるレパートリーの拡大にも力を注ぎ、木管五重奏の新境地を開拓。2022年5月にクラリネット奏者が代わり、グループとしてのさらなる飛躍が期待されている。

カール=ハインツ・シュッツ [フルート]

オーストリア生まれ。オーレル・ニコレ等に師事。カール・ニールセン国際フルート・コンクール等で優勝。ウィーン交響楽団首席フルート奏者等を歴任。客演奏者としてパイロイト祝祭管弦楽団等に客演。ソリストとしても様々なオーケストラと共演、好評を博す。またウィーン・リング・アンサンブルや、アンサンブル・ウィーン=ベルリンのメンバーとしても活躍。ウィーン国立歌劇場管弦楽団の首席ソロ・フルート奏者、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団ソロ・フルート奏者。ウィーン・コンセルヴァトリウム音楽大学のフルート科教授。

シュテファン・ドール [ホルン]

ドイツ生まれ。1985年フランクフルト・オペラ管弦楽団の首席ホルン奏者に就任、2年後にはパイロイト音楽祭管弦楽団、その後ニース・フィルハーモニック管弦楽団、ベルリン放送交響楽団にて首席を歴任。ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団には1993年より首席ホルン奏者として就任。また、ソリストとして、さらにベルリン・フィル団員との数多くのアンサンブルのメンバーとして活動するほか、ハンス・アイスラー音楽大学およびカラヤン・アカデミーで指導も行っている。

リヒャルト・ガラー [ファゴット]

オーストリア生まれ。1987年9月より、ウィーン交響楽団の首席奏者を務めているほか、ブラードのパプロ・カザルス音楽祭、札幌のパシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)ほか、著名な室内楽音楽祭に定期的に出演。2010年より、ウィーン室内合奏団のメンバー。ソリストとしても、世界各地で活躍するかたわら、1997年から2004年にはザルツブルク音楽院教授、2004年3月からはウィーン国立音楽大学教授として後進の指導にもあたっている。

ゲラルド・パッヒンガー [クラリネット]

オーストリア生まれ。ペーター・シュミードルに師事。クラウディオ・アバド率いるグスタフ・マーラー・ユース・オーケストラに創設メンバーとして入団。1987年10月より、ウィーン交響楽団首席クラリネット奏者を務める。ルイージ・サヴァリッシュなど多くの指揮者とソリストとして共演。室内楽奏者としては、ウィーン木管アンサンブル、ウィーン木管五重奏団、ウィーン室内合奏団のメンバーを務める。ザルツブルク音楽祭をはじめとする数多くの音楽祭にも招かれる。2004年よりグラーツ国立音楽大学の教授を務めている。

ジョナサン・ケリー [オーボエ]

イギリス生まれ。ケンブリッジ大学で歴史学を学び、ロンドンの王立音楽アカデミーとパリ国立高等音楽院でオーボエを学ぶ。バーミンガム市交響楽団首席オーボエ奏者を10年間務めた後、2003年、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団首席オーボエ奏者に就任、また、ソリストとして定期的にベルリン・バロック・ブリステンと共演を続け、CDの録音も積極的に行っている。また、シャルーン・アンサンブル・ベルリンとも頻りに共演、ツェルマツ音楽祭では、演奏者としてだけでなく、講師として教育活動にも参加をしている。



愛知室内オーケストラ [管弦楽]

2002年、愛知県立芸術大学出身の若手演奏家を中心として発足。定期演奏会をはじめ、医療法人葵鐘会(愛称:ベルネット)の支援・プロデュースによる特別演奏会など積極的な活動をしている。2015年から6年間に亘り新田ユリを常任指揮者に迎え、2019年7月、フィンランドの2都市で公演をおこなう。2020年、〈モーツァルト・グラン・パルティータ&ディヴェルティメント第2番〉をCDリリース。2021年7月、川本嘉子を弦楽器アドヴァイザーに迎え、創立20周年となる2022年4月、山下一史が初代音楽監督に就任。

劇場インフォメーション

~音楽を巡る冒険~ 堤剛 チェロ・リサイタル

2022年10月15日(土) 15:00開演 東海市芸術劇場 多目的ホール

一般 ¥3,500
ユウナフレンドメンバーズ ¥3,150
小中高生 ¥1,000 プラチナ会員割引価格 小中高生 ¥900

※未就学児入場不可

出演:堤剛[チェロ]、須関裕子[ピアノ]
プログラム:カザルス/バストラル、
カサド/愛の言葉
ラヴェル/ハバネラ ほか

チケット発売日:
[先行]7月9日(土)/[一般]7月16日(土)

